

平成30年5月10日
NHK広報局

5月会長定例記者会見要旨

Q. 平成29年度決算の速報と営業業績について

A. (上田会長) 事業収入は前年度を130億円上回る7,204億円となり、事業収支差金では230億円の黒字を確保することができました。このうち受信料収入は6,914億円となり、計画を上回る増収を確保することができました。国内放送・国際放送の充実やピョンチャンオリンピック・パラリンピック放送の実施など公共放送の使命・責任をしっかりと果たす一方で効率的な事業運営に努めました。3か年経営計画の最終年度として役職員の努力の成果があらわれた決算になったと思います。

営業業績は、契約総数は76万6,000件の増加で年間計画に対して153.2%、衛星契約は77万1,000件の増加で年間計画に対して128.5%となり、ともに29年度の計画を達成しました。支払率は28年度末から1ポイント向上し80%となり、前経営計画で掲げた支払率80%に到達しました。衛星契約割合は28年度末より1ポイント向上し51%となりました。

(詳細は報道資料参照)

Q. 「2018 FIFA ワールドカップ ロシア」の放送計画について

A. (会長) 「2018 FIFA ワールドカップ ロシア」の開幕まで1か月余りとなり、放送計画がまとまりました。

総合テレビでは、全64試合のうち、32試合を中継でお伝えします。6月19日午後8時45分からお伝えする日本の初戦・コロンビア戦は、1次リーグ突破に向けた、大変、注目度の高い試合です。BS1では、64試合すべてを放送します。このうち、6月25日午前0時から行われる日本の第2戦・セネガル戦は中継で、そのほかの63試合は中継録画でお伝えします。

スーパーハイビジョンでは、日本・コロンビア戦をはじめ、開幕戦、決勝など8試合を8Kで制作し、スーパーハイビジョンの試験放送で放送します。また、ワールドカップとしては初めて、FIFAが国際信号として4Kでも制作・配信しますので、4試合をスーパーハイビジョンの試験放送で放送します。

インターネットでは、パソコンやスマートフォンのワールドカップサイトや専用アプリで大会を楽しんでいただけます。総合テレビで中継する32試合については、FIFAが提供するマルチアングルなどのサービスがついた動画をライブ配信します。これは、メッシ選手やロナウド選手など特定の選手を追いかけているカメラや、シュートシーンを捉えた複数のカメラを、ユーザーが自由に選択できるものです。このほか、全64試合の見逃しや、ハイライト動画の配信も行います。

また、大会期間中は、ネット同時配信実験「試験的提供A」も実施します。

(詳細は報道資料参照)

(以上)